

## 国連防災世界会議 仙台で開催

### 日本大学『N. 国際救助隊』代表木村芸術学部教授が活動報告

東日本大震災から4年を迎えた今年3月、仙台市で187の国連加盟国の元首・首相・閣僚など6,500人が参加した第3回国連防災世界会議が開催されました。本会議では国際的な防災戦略が話し合われたほか、政府機関やNPO・NGO、大学などが防災や復興に関する取り組みを発表するパブリックフォーラムも同時開催され、日本大学学長特別研究チームが「N.国際救助隊」の活動報告と研究発表を行いました。

研究代表者として芸術学部デザイン学科木村政司教授が、世界の舞台で社会に貢献できる『N.国際救助隊』を組織し、大型トラックを改装した『スマートモビリティクラフトSMC-1』に、理工学部を中心に救助支援活動・復興支援活動を行う機材を搭載した『災害支援モビリティ』、医歯薬系・生物資源科学部による医薬福祉活動機器や遠隔診断機器、将来は遠隔手術医療システム導入を考えた『医療福祉支援モビリティ』、芸術学部と理工系・文理・商学部・生物資源科学部を中心とした『教育支援モビリティ』など、大学と地域社会と連携した社会実験活動を報告しました。

理工学部精密機械工学科の青木義男教授は、宇宙エレベーターを研究、2013年には到達高度の世界記録を達成し、その技術をもとにアンテナを搭載した係留気球を用いた災害情報通信システムを開発。気球に取り付けたアンテナから広い範囲に災害電話及び情報配信を行う実用化のめどを付けました。

理工学部の伊達岬名教授は、防潮堤と一体となった建築物を海岸沿いに配置し、普段は遊歩道、発災時には高台への避難路となる都市構造を、宮古市田老、気仙沼市に提案、高い評価を得ています。

理工学部交通システム工学科の轟朝幸教授は、東北には三陸地域の海岸や湖水など水上飛行機が利用できる場所が多く、コストを掛けずに人や物を高速で運ぶ水上空港ネットワーク構想を提案しました。

今後30年以内に高い確率で発生が想定される東海地震は、東南海・南海地震が連動すればM9の巨大地震となり、関東から九州までの日本の経済・人口の多くが集まる地域に激震と巨大津波が襲い、死者30万人、被害額は220兆円に達すると想定されています。建物の耐震化や住民の避難など様々な対策で「減災」に取り組むとともに、災害発生後の緊急救助捜索、医療・救援物資輸送体制、避難住宅の確保等への備えが急がれています。



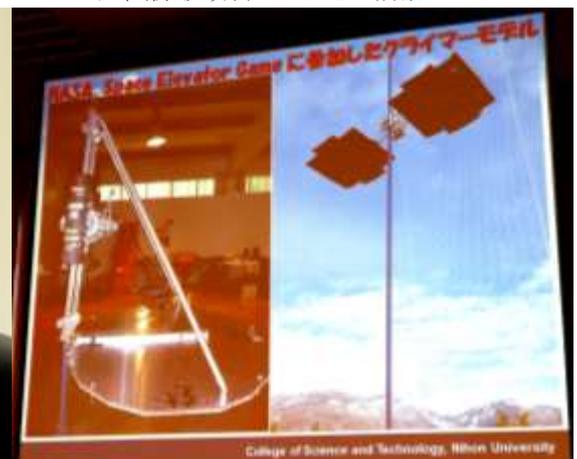
木村政司芸術学部教授



日大国際救助隊 SMC-1の活動



青木義男理工学部教授



係留気球を用いた災害時情報通信基地

研究代表の木村政司教授は芸術学部業務担当(現:学部長)で、平成20年開催の東北アートフェスティバルや芸術学部校友会活動でお世話になっています。宮城江古田会有志は、木村教授はじめ今回参加した教授、学生の方々と東日本大震災の復興状況など情報交換し、フォーラムではこれらの研究成果が災害時にどのように貢献できるか考えながら発表に耳を傾けていました。(塚崎隆夫)

## 新会員です 宜しく

### 仙台に戻ってきました 宮崎晴夫・美術S54年度卒

昨年、定年で郷里仙台に戻ってきました。そして今回始めて、自動車部の大先輩方がおられる宮城江古田会総会に少し緊張感を持って参加させていただきました。時代はそれぞれ違いますが、同じ江古田の地で過ごした仲間の一人として温かく迎えてくださり、日藝のDNAを再認識する大変楽しいひと時でした。

私は久保田早紀の異邦人が大ヒットした年に、この曲をCMソングとして企画した関西の電機メーカーに就職し、デザインセンターに配属されました。当時は、最初に配属されたテレビデザイン部だけでも国内外のテレビデザインに対応するため、多くのデザイナーが働いていました。

デザインと言うと何かカッコいいスタイルばかり追っているとされるかもしれませんが、たとえば中近東向けテレビデザインを担当していたデザイナーは、ゴールド色の、きらびやかなデザインを行っておりました。普通の遊び方をしては出てこないような衝撃的なデザインでした。日本の市場では絶対受け入れられなかったことでしょう。各国(もちろん国内)で売れる製品を作れと言う会社の要求に対して、具体的な提案をしていくのがデザイナーの仕事です。スタイリングだけでなく、素材の選定、工場での生産性を考慮した形状決定と、生産に至るまで、また売り方の提案まで、デザイナー(工業デザイナー、グラフィックデザイナー)は結構細かいところまで関わっておりました。もちろん営業、技術、その他多くの方々との共同作業の話ですが……。

デザインといえば、最近東京オリンピックのエンブレム問題が話題となっておりますが、エンブレムの採用にあたり展開性も評価されたとあります。単に一枚のポス

ターのデザインではなく、オリンピックの一連の流れの中で、多くのバリエーション展開が可能だと言う提案は、プロならではの仕事だったと思いました。似る似てないだけに終始したのは、残念です。ただこれがデザイナーの宿命なのかもしれません。私の所属していたデザインセンターでは時代とともに、デザインの世界標準化の流れや、又会社の諸事情で、転籍、退職などで、徐々にデザイナーの数が少なくなっていました。

私も御多分に漏れず、わずか10数年でデザインの仕事を離れることとなりました。その後輸入住宅事業、塗料事業、と電機メーカーとしてはユニークな職場を転々としてきましたが、何らかの形で、物作りに関れたので幸いなサラリーマン生活でした。



デザイナーとして就職して最後は電気の仕事(太陽光事業)で定年を迎えることとなりました。人生分らないものです。

定年後の現在は、シニアスタッフ(再雇用)として現在の会社で太陽光関係の仕事を行っております。

大昔のデザインの仕事を少し書かせていただきました。デザインの仕事の手法は昔と今ではだいぶ違うと思います。しかしデザインの本質は問題解決にあります。(実はデザインの本にはよく出てくる言葉ですが)形や色を決めるだけがデザインではありません。

この本質をもう一度意識しながら、第二の人生をこの仙台で楽しく送っていきたいと思います。皆様よろしくお祈りします。  
(宮崎晴夫)



この懐中電灯は24年前に私がデザインを担当しました。短命な家電品の中、最近までカタログに載っていましたが残念ながら会社消滅と共に姿を消しました。形ある物はいつか無くなるものですね。

## 会員の活躍

### 仙台に新風～ピアノリサイタル 高橋咲千子・大学院音楽H21年度卒

「高橋咲千子ピアノリサイタル」が6月21日仙台市シルバーセンターで開催されました。平成19年の音楽科卒業後、日芸大学院で研究を続け、久しぶりに仙台に帰って来て約2年。仙台では2度目のリサイタルです。

ヴァイオリニスト・テイセナさんをゲストに迎え「1度は聴いたことのある名曲をたくさん演奏する」とのコンセプトのもと、美しい音色と確かなテクニック、素晴らしい音楽表現に溢れたクオリティーの高い演奏会となりました。当日の大勢のお客さま、そして応援にかけつけた宮城江古田会の誰もが「また聴きたい」「次はどんな演奏会をしてくれるのかしら？」とワクワクしながら帰途につききました。高橋さんが仙台に新しい風を運んできたよ

うです。

(星 久美子)



### はあとふるコンサート 星 久美子・山本和香・音楽S51年度卒

音楽科の同級生山本和香さんもメンバーの女性ヴォーカルグループ「クローバーの会」の『はあとふるコンサートVol.4』を、6月29日宮城野区文化センターで開催致しました。当日は、オペラアリアの独唱や重唱でのアニメソングメドレーなど、クラシックをもとにした幅広く親しみやすいプログラムで、大勢のお客さまに楽しんでいただけたことと思います。また、大学院音楽科・平成21年度卒のピアノ・高橋咲千子さん、トランペット・花澤幸恵さんの賛助出演もあり、多彩なステージ構成と洗練された華やかな音色に、会場は一層盛り上がりました。宮城江古田会からも多大な応援をいただき、メンバー一同大変感謝しております。

8月4日には、山本さんの地元気仙沼

にて、ボランティアコンサートを開催し大好評でした。次回は、明年1月31日東北電力アクアホールでのコンサートを予定しております。お客さまの帰り道がシアワセ気分になるような、楽しいコンサートをご用意致します。どうぞ足をお運び下さい。

(星 久美子)



### 言葉のいろ 音のかたち 佐藤 円・放送H4年度卒

平成25年から続いていた、音声詩人佐藤 円とヴォイスパーフォーマー荒井真澄さんによる朗読ライブ【言葉のいろ 音のかたち】シリーズが最終回を迎えました。今年はず7月4日(土)に「Vol.4 花鳥風月 宵祭り」を開催。私のステージでは仙台の開発者が創った超小型DJマシンである「GO DJ」を駆使しラジオドラマをライブで楽しんでいただくようなコーナーがあったり、花、鳥、風、月にちなんだ自作の詩を朗読したり、ちょっとだけオカリナを演奏したり歌ったりしました。

そして、最終回は10月4日(日)。「Vol.5 とっておきの収穫祭」というサブタイトル通り、今までの総まと



めになるようなステージとなりました。相棒の一関在住の音楽教師舞石美和さん(音楽H3卒)のピアノとともに、スタンダードナンバーや子供のピアノレッスン用の小曲集などと私の自作の詩を組み合わせ、さまざまに世界を展開させ、飽きさせないステージを心がけました。始めてから2年ちょっとのアルトサクソもどうやらご愛嬌と言えるくらいには上達したようです。

全5回、会場である錦町JAZZ ME BLUES noLa に足をお運びくださった酒井健樹事務局長、そしてずっと見守ってくださった宮城江古田会の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしく願いいたします。

(佐藤 円)

## 宮城江古田会平成27年度総会

平成27年度の宮城江古田会総会は、6月6日(土)青葉区一番町の「仙台屋」にて、野田慶人学部長、綾部東洋子校友会会長、國分一彦岩手江古田会会長、深松勇日本大学校友会宮城県支部長をお招きして開催されました。今年の総会には去年、定年の年に仙台に戻って来た宮崎晴夫さん(美術・S54年度卒)が初めて参加し、総勢18人の総会となりました。総会では、綾部東洋子校友会会長からご挨拶をいただいた後、平成26年度の活動報告・会計報告、そして本年度の活動計画・予算



が承認されました。

懇親会では野田慶人学部長からご挨拶をいただきました。この中で、現在進行している芸術学部江古田一体化の計画や、大都市にある私立大学への学生集中を避けるために文部科学省が方針を決めた、入学定員超に対する補助金減額の話がされました。補助金カットは、地方の過疎化を防ぐための方策とはいえ、その実効性に対する疑問や大学運営の難しさを改めて思い知らされるお話でした。この後、全員から近況報告をいただき、なごやかなうちに会は終了いたしました。(酒井健樹)

## 石川江古田会設立総会

平成27年4月18日、北陸新幹線開業して興奮冷めやらぬ!石川県金沢の地で、19番目となる石川江古田会設立総会に私と柳橋副会長の二人で参加してきました。野田学部長、綾部校友会会長、日大石川県支部長はじめ15名の来賓と総勢40名近くの出席の中、干場文夫事務局長(星久美子さんと音楽学科で同期)のユニークな進行で総会は始まり無事設立となりました。



## 岩手江古田総会

平成27年11月7日、岩手江古田会総会に酒井事務局長と二人で参加。今回の総会は、新幹線水沢江刺駅より車で7分の新茶屋という料亭で行われました。原敬 ゆかりの料亭だそうで立派な日本庭園が印象に残りました。木村学部次長、綾部校友会会長はじめ多くの校友出席のもと無事総会が行われました。(桑折洋一)



## 平成30年開催予告!あの感動を再び...

### アートフェスティバル東北 作品・ステージ演奏 ご準備ください!

写真・絵画・彫刻の展示、ステージでの演奏などを予定、来年度には実行委員会を立ち上げます。まだまだ

先のこと...と思わずに今から作品制作・演奏準備お願いします♪

## 宮城江古田会 新年会 平成28年1月23日(土)開催

宮城江古田会の新年会を右の要領で開催いたします。お誘いあわせの上ご参加ください。

個展・コンサート・出版・イベントのPRや支援要請など何でもどうぞ、お待ちしております。

日時 平成28年1月23日(土) 18:00

会場 和旬彩「あだん」 Tel.022-302-5481

仙台市青葉区中央1-7-6西原ビル 七十七名掛丁隣

会費 5,000円

**[編集後記]** 皆様の活動・同じ地域で暮らしていても、なかなかお会いする機会がありません。日ごろの活動を伝えているブログや、発表会・展示会などの告知、近況報告等々を酒井<sakaitakeki@gmail.com>までお寄せください。出来る限り会員の皆さまにお伝えしたいと思います。地震や火山噴火など大規模災害の発生が心配されているなか「N.国際救助

隊」の社会実験、役立つ日がこないことを祈りたい。(酒)

発行責任者 桑折洋一

事務局 〒980-0802 仙台市青葉区二日町12-21

(有)アズシステム Tel:022-267-0894 Fax: 022-267-3798

Mail: koori@az-sys.co.jp